



佐藤嘉重 本宮市長

昭和13年12月15日生まれ、68歳。
趣味は、読書、ゴルフ。最近健康のため、
毎朝のストレッチを欠かさない。好きな
言葉は、「強く 仲良く たくましく」。

市長インタビュー

まずは、融和と財政再建を

◆市長としての 当面の取り組みは

2 つあります。一つは、本宮町と白沢村が合併して誕生した市ですので、まずは人と人との融合、融和に務めていきたいと思えます。新しいまちづくりには、市民の皆さんの協力が不可欠です。それには市民の皆さんの心が一つでなければなりません。気持ちを一つにした中で、まちづくりに取り組んでいくことが一番大切だと考えています。

もう一つは、行財政改革の継続です。市民の皆さんも財政問題には大変関心を持っておりませんが、皆さんが不安をいだかないよう、改革をパワーアップし、しっかりとした財政運営に努めていきたいと思えます。それには行政の見直し、改革も当然に必要となつてきます。

厳しい地方自治の運営は、全国的に同じですが、今回の合併は、トータルコストを安くし、住民の皆さんへのサービスを低下させない一つの大きな行財政改革と言えます。

◆教育問題について

教 育問題は、国政レベルで真剣に議論がされていきますが、子どもたちの教育の基本は、家庭における「しつけ」です。その上で、体力を付け、読み書きそろばんをきちと学ばせることが、いつの時代でも同じだと思います。さらに、地域の問題としてもみんな考えて行かなければなりません。地域のつながりの強いことは、子どもたちの教育にも、すばらしい影響が表れてくるのではないのでしょうか。

◆少子高齢社会への対応は

お 母さんたちが安心して子どもを産み育てる社会にすることは、今とても重要なことですが、なかなか地域だけで対処するには難しい問題です。本宮市として何ができるのか、解決できることはあるのかを、まず考えていきたいと思えます。

市では、県立病院の跡地利用について検討しているところですが、保健センターの機能

能を有した施設を整備できれば、子育て支援、世代間交流にも活用できると考えています。人の集まる場を提供することで、お母さんたちが気軽に立ち寄れるようになり、おしゃべりなどをする中でストレス解消になります。また、ここに集まる高齢者の方も子育てに関わることができ、多くの世代が楽しくふれあうことができます。

◆市の基盤整備について

本 宮市は合併で、面積が2・2倍になりました。整備計画も、大きくなった地域の中で考えていかなければなりません。ドリームラインの整備や菅田橋の架け替えの計画の実現、市の顔としての本宮駅周辺の整備、道路拡幅や電柱の移設など、トータル的な整備を検討していかなければなりません。本宮は駅から5分のところに阿武隈川があります。これらの自然環境を生かした整備は、商業の発展にもつながると思えます。

具体的な計画としては、名郷橋の改良、踏切や交差点の改良、上ノ橋の架け替え計画などが挙げられます。

◆産業の振興対策は

人 が定着するためにも産業振興は欠かせない大切なことです。本宮市は、2,200億円の工業出荷額、750億円の商品販売額、30億円の農業生産額と県内でもトップクラスを誇ります。

商業については、大型店も良い部分ではありますが、近くの商店もなくては困るという声も多く聞きます。そのためにも、商店街の活性化は必要です。

農業については、遊休農園の解消など、まだまだ活性化する方法があると思えます。どの業種もそうですが、結局は人と人との会話が大切だと思います。お互いに顔見知りになる、そして交流すること「食」の安心も図られると思えます。

みんなが顔見知りになることは、防災上の安心・安全にもつながります。私もふれあいを大切にしなが、楽しい市をつくりたいと思えます。

